



#29 Saint Valentin

バレンタイン特集。フランス語で愛の詩を即席作成できるサイトを紹介しながら、All aboutフランス語ガイド越智三起子さんに向けて実際につくってみました。彼女の反応は？フランス語レッスンは愛の詩から。パリ流バレンタインの話題もあります。

☆パーソナリティ

ボブ & かおり

☆今週のゲスト

野口雅子さん

(エッセイスト／パリ在住)

越智三起子さん

(All About フランス語ガイド)

Générique et intro

Le 13 février 2007, vingt-neuvième numéro de chocolat, magazine bilingue français – japonais.

Nous sommes la veille de la Saint Valentin, et nous en parlerons d'abord avec l'essayiste NOGUCHI Masako qui vit entre Paris et Tokyo.

Ensuite, en Skyplex avec Mikiko de All About, nous parlerons encore de l'amour, avec des mots, en français ou en japonais.

パリのバレンタイン

パリと東京を拠点に活躍中のエッセイスト、野口雅子さんに、パリと東京のバレンタインの違いやパートナーを見つける方法を伺いました。ご自身の経験からパートナー選びについて著書も出されている野口さんのお話、説得力があります。せっかくのバレンタイン、自信と目的を持って行動すること、これが一番大切なよう。語学も同じですね！（野口雅子さんの著書もあわせてどうぞ！「理想のパートナーに選ばれるパリ流・恋愛レッスン」）

覚えよう petit à petit ♪

acrostiche

アクロスティッシュ：詩の各行の最初の文字を縦に読むと人名やキーワードが読みとれるように書いた詩文。
本文にあるカオリさんのための詩《Kilos d'amour...》は冒頭の文字を縦に読むと《KAORI》と読めます。こういう方法で、詩文の表のメッセージだけでなく、もっと別な裏のメッセージをつけ加えられるのです。

vers

詩の一行、詩文

composer

を構成する、つくる

amoureux

愛の[amourの形容詞形]

rien que

ただ〜だけ

sembler

〜のようだ

à tout jamais

永遠に

imprégné de...

...に浸っている

vif/vive

活発な、熱烈な

impatience

待ちこがれる気持

générateur

発生器、ジェネレーター

destiné à...

...向けの、用の

dulcinée

意中の女性、恋人

doux/douce

優しい、甘味な

mirifique

夢のような

plonger

陥れる、浸す

ivresse

陶醉

constellation

星座

dessiner

描く

délicatesse.

繊細さ、優雅さ

souffle

呼吸、息吹

sirène

セイレン(シレーヌ)(半人半魚の海の精で、魅惑的な声で船乗りを誘う)

frémir

震える、細かく揺れる

branchages

枝(全体)[集合的に]

ramener

連れ戻す

Mots d'amour

- Dis-moi, Kaori, est-ce que tu sais ce que c'est qu'un acrostiche ?
- C'est de la poésie. Les premières lettres de chaque vers composent un mot. Tu comprends?
- Bien, puisque nous sommes à la veille de la Saint-Valentin, on va écrire un acrostiche amoureux avec le mot "Kaori".

Kilos d'amour rien que pour toi

Avec toi tout semble plus gai

Ô mon amour, ne me laisse pas!

Restons ensemble à tout jamais

Imprégnés de vive impatience

「Le générateur de mots d'amour」

- Cette fois je choisis le "générateur de poèmes"
- Commencez par choisir si le poème sera destiné à...
- Une femme ou un homme
- Je choisis "Une femme"

Quel est le prénom de votre dulcinée?

Quelle est la couleur de ses yeux? Il y a un menu, dans le menu, je choisis Marron.

Quelle est la couleur de ses cheveux? Noirs.

Elle est... (belle, douce, magnifique, etc.

Mikiko à Tahiti

Les parfums chauds et marrons de ces îles mirifiques

Me plongent dans tes yeux comme dans une tendre ivresse

Les constellations, le ciel électrique,

Dessinent tes cheveux noirs avec délicatesse.

Je pose mon oreille contre un beau coquillage

Et j'entends ton souffle, douce sirène...

Un oiseau rouge fait frémir les branchages,

Et c'est ta main, Mikinette, que le vent me ramène ...

百人一首より

Quand pour ma Dame

par la lande printanière

cueillais jeunes herbes

sur la manche de ma robe

la neige enrore tombait

petite leçon: ぶんぽう一口メモ

1) **la Saint-Valentin**

聖バレンタインは男性なのに、女性形の定冠詞**la**がついていますね。これは、**la fête de Saint-Valentin** (聖バレンタインの祭)を省略したものです。

2) 命令文

ここにでてくる命令文の基本を復習しましょう。

a) **Commencez par choisir...** (選ぶことから始めてください)

vousに対する命令形です。

b) **Restons ensemble...** (いっしょにいきましょう)

nousに対する命令形で「~しましょう」(英語の**let us...**, **let's...**)という意味になります。

c) **Ne me laisse pas...** (私をおいて行かないでくれ!)

tuに対する命令で、否定形です。

直説法現在形は**tu laisses**ですが、これを命令形にすると語尾の**s**はなくなります(発音は変わりません)。

また、否定命令で代名詞の目的語(ここでは**me**)がある場合、語順は平叙文(**Tu ne me laisses pas.**)と同じです。

しかし、肯定命令形では、**Laisse-moi** (私を放っておいて!) となり、語順が変わります。

《**Allons-y**》(でかけましょう!)の場合も同しく肯定命令です。

3) 条件法の用法2つ

a) **Un surnom qui lui irait bien...** (彼女によく似合いそうなニックネーム...).

この条件法は、推定や推測を表わしています。

b) **Si vous étiez un oiseau, vous seriez un...** (もしあなたが鳥だったら、あなたは...かもしれませんね。)

この条件法は、(**si**+半過去とともに)事実ではない仮定にもとづいた、ありえない空想や仮定を表わしています。

シャンソンのなかの愛の言葉

愛や恋は、どの国でも、どの時代にも、数限りなく文学や芸術に描かれ歌に歌われています。フランスでも、中世の宮廷恋愛から現代まで枚挙にいとまがありません。そのなかからここでは、シャンソンに歌われた愛の言葉をほんの少しだけ紹介しましょう。

最初にとりあげたいのは、愛に生きた世紀の天才歌手エディット・ピアフEdith Piafの『愛の賛歌』**L'Hymne à l'amour**です。それは彼女が恋人のために作詞した熱烈な愛の歌です。しかし彼女が歌詞を書いたすぐあとに、恋人は飛行機事故で亡くなってしまいます。

青空が崩れ落ち、大地がひっくりかえっても、そんなことはどうだっていい、あなたが私を愛してくれるなら**Peu m'importe, si tu m'aimes**。たとえ死んでも、愛し合う二人を神がまた結びあわせてくれる**Dieu réunit ceux qui s'aiment**。

ピアフは、また、若い頃にも、『バラ色の人生』という曲を自分で作詞作曲しています。私は、彼に見つめられると、うつむいてしまう。低い声で愛の言葉**mots d'amour**をささやかれると、バラ色の人生を夢見て**Je vois la vie en rose**、心がときめく**Mon coeur qui bat**。

情熱的な恋を歌ったピアフは、ドラマチックな人生を駆け抜け、三度の交通事故を経験し、さらに不治の病に冒されて、1963年に47歳の生涯を閉じました。

さて、シャンソンは情熱的な恋ばかりを歌うわけではありません。

平易な言葉でパリの民衆を描いたシュールレアリズム系の詩人ジャック・プレヴェール **Jacques Prévert** は、悲しい恋の思い出を歌います。名高い代表作『枯葉』 **Le feuilles mortes** は、ジュリエット・グレコをはじめとして、多くの歌手に歌われました。

愛しあっていた私たちの幸せな日々を思い出してほしい。その頃人生はずっと美しかった **En ce temps-là la vie était plus belle**。君は私を愛していた、私は君を愛していた **Toi qui m'aimais, moi qui t'aimais**。けれど、ゆっくりと音もたてずに、人生は愛し合う二人をひき離してゆく **Mais la vie sépare ceux qui s'aiment, tout doucement sans faire de bruit**。

プレヴェールはまた、戦争で引き裂かれた男女も描いています。場所は北仏の軍港ブレスト。男は、一度きり出会って愛し合った女『バルバラ』の思い出を語ります。思い出しておくれ、バルバラ。あの日、ブレストには小止みなく雨が降っていた **Rappelle-toi Barbara. Il pleuvait sans cesse sur Brest ce jour-là**。君は笑みをたたえてほがらかに雨の中を歩いていた。すれ違った私たちは恋に落ちた。しかし、バルバラ、戦争とはなんたる愚行だろう **quelle connerie la guerre**。今君はどうしているのか？ この鉄と火と血の雨の下で... **Sous cette pluie de fer, de feu, d'acier, de sang...**

同じくシュールレアリズムの詩人ルイ・アラゴン **Louis Aragon** は、第二次大戦直後の絶望の時代に『幸せな愛はない』という詩を書きました。その後、ギターの弾き語りで歌うジョルジュ・ブラッサンス **Georges Brassens** がこれに曲をつけて広く知られるようになりました。

人は何ひとつ確実に手に入れはしなかった。力も、弱さや心でさえも。人生とはよそよそしく苦しい別れなのだ。幸せな愛はない。 **Sa vie est un étrange et douloureux divorce. Il n'y a pas d'amour heureux**。そうであっても、言ってほしい。これが「私の人生だ」と。そして涙をこらえておくれ。

Dites ces mots "ma vie". Et retenez vos larmes。私のすばらしい愛、私のいとしい愛、私の悲痛な心... **Mon bel amour, mon cher amour, ma déchirure...**

これとは別に、おどけた愛の歌もあります。ブランサンス自身が作詞作曲した『おいらの心の森には』は、皆から愛され慕われるほら吹きで気のいいやくざな男のお話です。

クラマールの森には小さな可愛い花が咲く。おいらの心の森には仲間たちがいる。

Au bois de Clamart, y a des petit's fleurs. Y a des copains au bois d'mon coeur。おいらはちょっとは知られたワルなんだ。酒を飲めば、仲間がみんな集まってくる。結婚すれば、仲間がみんな祝いにくる。おいらが結婚するたんびに、結婚するたんびに **chaque fois que je me marie, que je me marie**。おいらの葬式のときは、りちぎにみんなが参列する。おいらが死ぬたんびに、死ぬたんびに。 **Chaqu' fois qu'je meurs ..., chaqu'fois qu' je meurs...** おいらの心の森に、小さな可愛い花が咲く、 **Des petit's fleurs, au bois d'mon coeur**。

シャンソンにはほかに、恋の喜びや苦しみ、少年と少女の初恋、恋をまだ知らないそばかすだらけの少女、さらには、船乗り(マドロス)や兵士に恋した女、やくざな男や娼婦の恋、川に身を投げ心中した娘の話など、さまざまな主題が登場しますが、王侯貴族の恋物語はありません。主人公はみな名もないささやかな人々です。19世紀後半に民衆文化として成立したシャンソンは、庶民の生き様を謳歌しながら、「愛と死を、そして、人生を歌う」 **chanter la vie, l'amour et la mort** のです。

愛については話題がつきません。シャンソンのほんのごく一部を紹介しただけでも話が長引いてしまいます。いつの世にも愛のテーマはついつい多くの言葉を紡がせるのでしょう。

なお、シャンソンの詞句をあえて多く引用しましたが、フランス語を学ぶ方々にその美しさと豊かさを感じていただきたいからです。